

短期研修報告書

記入 | 2019年 9月
所属 & 学年 | 理学部 3年生

留学先大学 (国名)	国立台湾大学
短期研修のプログラム名	2019 +R2 Research and Culture Program
留学した期間	2019/08/05~2019/08/31

1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

2019年夏のリサーチインターンシップを探しており、このプログラムに応募しました。ギリギリになって手続きを始めたところ実は推薦状が必要なことが判明したのですが、希望の研究室の先生に直接連絡を取ったところ、推薦状無しで受け入れの許可を貰うことができました。

事前に先生と連絡を取って自分がどのような研究をすることになるのかを詳細に尋ねたほうが良いと思います。私の場合は事前に研究に先立ち何か読んだほうが良い本などあるか尋ねたところ、研究の全体像がわかるような論文をくださったのですが、実際に行った研究はそのごく一部であり、実際に自分が行うことになる部分の詳細を事前に詳しく尋ねて準備しておけばよかったと後悔しています。また、予め自分のメンターが誰になるのかなども先生に確認しておけばよかったと後悔しています。私の場合メンターは修士の学生でした。

このプログラムでの研究室選びですが、他の人の話を聞くと

- ・理論系の研究室で、論文を7つ読むように言われて具体的なことがあまりできなかった。

(Oceanography)

- ・研究テーマが難しすぎて結局テーマを簡単なものに変更し、あまり得るものがなかった。
- ・メンターの方の実験を真似するだけで終わってしまった。

など感じてあまり満足できていない人たちがいるようでした。研究室を選ぶときには、自分が何を重視して何を経験したいのかを考えたほうが良いと思います。私の場合は運良く満足のいく研究室に入ることができました。

授業料の払込ですが、クレジットカードを利用できる方はクレジットカードで払ったほうが楽なのではないかと思います。私はなんとなく海外送金を選んだところ、自分でレートを計算する必要があり、どのくらい多めに上乗せすればよいか不安で少々面倒でした。

2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

このプログラムはその名の通り Research と Culture の2つからなっています。

Research:

Biomedical Electronics and Bioinformatics の Feipei Lai 先生の研究室でリサーチインターンシップをしました。国立台湾大学付属病院の患者さんのデータをもとに機械学習で様々なことを予測するというのが研究室の方々の主な研究内容です。先生が事前にメンターとして修士の方を私に割り当てくださり、主にその方に指導していただきました。彼女の研究内

容は、患者さんの診断書から RNN を用いて自動で ICD10 コード（支払われる保険の金額の基準となる、病名などに関する国際的なコード）を生成するというものです。私の研究内容は、既に彼女が作り上げた既存モデルの改良でした。最初の 1~2 週間を Python のコードの理解に費やしてしまったので、事前に彼女とやり取りしてコードだけでも送って貰えばよかったと後悔しています。

基本的に研究室には何時に行ってもいいし何時に帰ってもよかったです。好きなだけ研究室に居られます。研究室の雰囲気はとても良く、院生たちは皆仲が良かったです。意外と話してみると皆親切に教えてくれたりするので、もっと積極的に話しかけていればよかったと後悔しています。

既存モデルの改良についてはなかなか上手く行かず、期間が短いこともありプレッシャーが少しありましたが、若干スコアが良くなったときはとても嬉しく、大学院に行くためのモチベーションがかなり上がりました。研究についてはめざましい結果は出せませんでした。いろいろな院生たちの研究を聞かせてもらったりして色々得るところは大きかったです。また研究室の PC へのリモートアクセスも残してもらえています。

言語については、ミーティングなどで私に気を使って英語で話してくれるのですが（私は中国語を話せません）、議論になるとやはり中国語での議論になってしまうので、英語でのコミュニケーションを期待して長期的に留学するのであればやはり英語圏の方が良いかなと思いました。

Culture:

Cultural tour という、大学の授業の一環として台北市内のツアーが 3 回あり、日本統治時代の台湾についてかなり詳しく学ぶことができとても良かったです。ずっと研究室にいると疲れるのでいい息抜きになりました。

3. 生活（住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど）

寮の一人部屋に住みました。特に壁が薄いなどもなく何も問題ありませんでした。雑巾を持っていったのでシャワー後に足を置くマットとして使えて便利でした。朝食は寮の近くの 7-11、昼食と夕食は外食でした。ローカルフードなら 100TWD あればお腹いっぱいになります。洗濯は寮の地下に 10TWD のコインランドリーがあります。洗濯物は自室内に部屋干しできるスペースがあります。

4. 危機管理（身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど）

夜市に行くときにはノートパソコンなどの貴重品はできるだけ持っていかないようにしていました。またあまり大きな金額は持ち歩かないようにしていました。

5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

現在学部 3 年生で若干就職も考えていたのですが、今回の経験を経て研究の道を目指すことを決めました。留学で環境を変えて色々な人に出会うと、考え方が変わったりするので留学はいい経験になると思います。

6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考
航空運賃&ビザ申請料	24445 円	Air Asia です。
海外旅行保険	13790 円	保険料です。
授業料（教材費含）	円	
滞在費（寮費など）	345268 円	授業料+寮費
食費	円	
交通費	円	
その他（小遣い、通信費など）	40000 円	上記以外すべてです。
計	423498 円	

自由記述欄 *現地のおすすめ情報や留学エピソードなど自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

リサーチプログラムについては、日本の大学から来ているのは私一人だけでした。英語でたくさんコミュニケーションを取りたかった私としては良かったです。8割くらいは中国大陸出身でした。一方で中国語を学ぶプログラムでは、8割ほどが日本人で他はフランスやカナダなどの出身だと聞きました。他にも芸術を学ぶプログラムなどありましたが、全体的に中国語話者がとても多いです。中国語を練習したい人にとっては、中国語を話す機会がたくさんあるので良いと思います。



国立台湾大学